



# 産業廃棄物処理業ヒヤリハット 企業における具体的取組事例

株式会社 紙資源名古屋

安全衛生情報では会員各社へ伺い、社内における安全衛生の具体的な取組事例をご紹介します。

今回ご協力いただきました会員企業は、「株式会社紙資源名古屋」です。同社は、昭和46年創業、愛知県江南市の本社を拠点に、愛知県（江南市・一宮市・稲沢市・大口町）・岐阜県・三重県・長野県・滋賀県・福井県・静岡県において産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬、製紙原料再生資源回収販売、機密書類処理、重量物の解体やオフィス什器の処分など幅広くサービスを展開し、現在代表取締役は加藤友美氏です。

加藤氏は（一社）愛知県産業資源循環協会女性部のチャーターメンバーとして副会長を担い、女性部の事業活動の縁の下の力持ちとして部員の皆様と女性活躍推進に向けて貢献されています。

今号では同社の安全衛生への取り組みについて、同社循環推進事業部課長 大久保斉子氏及び廃棄事業部収集運搬・処理事業課 丹羽貴裕氏にお話を伺いました。

## 人命救助を第一に

### ●AEDを施設各所に設置

社屋、工場内、車両（特に地方へ回収に回る車両に優先してAEDを搭載している）に設置しています。

AEDの使い方は、「普通救命講習2」を受講した担当者が各社員に操作方法を伝えています。

### ●熱中症対策

夏場は熱中症対策として、「救命キット」（補水液、身体を冷やすための冷却器具等）が社内各所に置いてありますが、全車両にも「救命キット」が搭載されています。

### ●社内掲示

工場内には「安全第一」、「火気厳禁」のポスターを掲示し注意喚起を行なっています。

### ●安全衛生会議（1回/月）

日々のヒヤリハットの報告と改善について話し合い、報告書は全社で情報の共有を行なっています。

### ●ヒヤリハット講習会

日常的なヒヤリハットについては、事故防止の観点からの対策を行なっていますが、災害時（社内及び社外において）における人命救助への意識改革を促す指導も行っています。

### ・発災時における可能な取組

急な災害時において、慌てず対応範囲を広めるためのフローを文書化し、シミュレーションを行う。

一例として、工場や車両にあるシート（飛散防止のシートやブルーシート等）を発災時に、怪我人を運ぶための担架として代替、豪雨を避けるための雨よけとして代替、水に濡れてしまった人の低体温症を回避するため、シートを毛布代わりにして体を包み体温調整を図る。

例として挙げたシートは、同社においてはどの場所（社屋、工場、車両等）においても、必ず身近にあるものは何であろうか？との発想から、それがシートではないか？との結果、発災時における多機能な救助ツールとして活用ができるであろうとのことからです。

このような発災時における取組は、安全衛生への意識を高く持つことができ、災害状況下で何を何に代替できるのか、各社員の臨機応変な対応が人命救助の場で役立つのではないかと、とのことでした。

### ●ヒヤリハット事例

重機が転回している時、操作者の死角に人が入ってしまった。本来、死角に入ってはいけないことなのだが、それを新入社員が入ってしまった。

ベテラン社員であれば重機が転回している時には絶対にその稼働エリアに入らないが、危険予知が未熟であったため、ヒヤリハットになりました。

ヒヤリハットは重大事故につながる可能性がある



AED・救命キット搭載バッカー車両：作業員の命を守ることはもちろんの事ですが、毎日、広範囲を稼働する車両にAED・救命キットを搭載することで、作業中や通行中に倒れた方に素早く対応することができるため、人命救助として役立てばという思いから車両に搭載しています。

ため、些細なこととして気づかれていないところがあるので、その部分について深く理解をさせていただきよう啓発しています。

また、同じヒヤリハットを数回起こす場合は、人命に関わってくることもあるため、理解を促すよう何度も話し合いを行なっています。

### ●リフト講習会（半年 / 1回）

リフトの講習会を社内で実施

ヒヤリハットの発生数によっては、実施期間が随時になる場合もあります。

### ●笛の活用

最近の取組として、構内作業員には笛を配布して常に笛を携帯してもらっています。

何かあった際に音で知らせますが、いざという時に笛が吹けないといけないので定期的に笛を吹く練習を行なっています。

きっかけは場内の騒音で用事があって誰かを呼んでも聞こえない、大きな声で呼んでも聞こえない、

ということから、笛で知らせるようになりました。

笛の音で存在を知らせる、そうすればエンジンを切って話をするができます。

一方、危険を知らせるということも含まれており、例えば重機の後ろにいると死角になるため、重機操作者に人が後ろにいることを知らせる場合にも笛を吹きます。笛を持つようになり、より安全への意識が高まったとのこと。

### ●防火訓練（半年 / 1回）

古紙を扱っているので、定期的な防火訓練を実施して火災に対して意識を高くしています。

初期消火に対して、各施設及び車両に「投げ込み式消火剤」を設置しています。

「人命救助を第一に」を掲げられ、これまで同社においては大きな災害事故は無かったとのことでした。

今回発災時における同社の取組は、会社毎に身近な物の違いはありますが、何が緊急時に代替品となりえるのか、改めて備品の再確認につながる貴重な事例を伺うことができました。



AED講習会（協会提供の開催画像）



社内安全衛生啓発掲示物



社内安全衛生啓発掲示物



笛を吹く講習会



防火訓練



投げ込み式消火剤（車両にも搭載）